

【資料1-4-①】

四日市市における過去の地震災害事例

	発生年月日／種別	被害の内容
1	1096. 12. 17 (嘉保3. 11. 24) 嘉保地震	畿内から東海を範域とする地震で、震源は東海沖と考えられている。京都の大極殿が破損したり、奈良東大寺の巨鐘が振り落ちたり、近江の瀬田の唐橋が落ちたりした。伊勢阿乃津（津）でも津波に襲われ被害が出る。
2	1498. 9. 20 (明応7. 8. 25) 明応東海地震	『宇治山田市史』によると、「大地震あり、海鳴りを起こして海辺の被害おびただしく、大湊領の塩屋村の如きは180戸ほとんど全滅、生き残った者僅かに45人であった」「熊野に於いては本宮に社殿倒壊、湯の峯温泉は10月18日まで湧出を止めた」と記されている。
3	1586. 1. 18 (天正13. 11. 29) 天正地震	奥飛騨を震央とする烈震が発生し、震度6以上の地域は北勢地方にまで及んでいる。この地震によって、飛騨白川谷の保木脇にて大山崩れが生じ、帰雲城を埋没させ城主以下多数を圧死させた。伊勢長島でも被害甚大であった。
4	1605. 1. 31 (慶長10. 12. 16) 慶長東海地震	国内最大級の地震の一つ。地震による津波は東は犬吠崎から西は九州までその範囲は広い。伊勢の浦々では地震の後、まず数町沖まで潮が引き、約2時間後に津波が来襲した。『津市史』に「海が数丁干潟になり、それを見た漁人が等魚貝を採らんと干潟に集まりしに、高波打ち上げて皆沈没せり」と記されている。
5	1662. 6. 16 (寛文2. 5. 1)	近江盆地を中心にした地震。地震区域は大阪から若狭湾、北伊勢に及ぶ。比良岳付近が震源で、その付近は振動が激烈。比良岳下の唐崎では、田畑85町が琵琶湖に没する。 亀山、桑名、彦根、伏見などの城では、石垣・櫓などが崩れる。
6	1707. 10. 28 (宝永4. 10. 4) 宝永地震	紀伊半島沖を震央とするマグニチュード8.4 という我が国最大級の地震。旧版『四日市市史』に「家屋の倒壊・破損おびただしく、田畑・宅地・井溝・堤防・橋梁等の破損するもの無数であった。午後3時前に俄然大高潮襲来し海岸堤防を破壊し、町中浸水甚だし…」とある。 〔四日市の被害〕 家屋倒壊 152軒、大破損 524軒
7	1819. 8. 2 (文政2. 6. 12) 文政地震	近江の湖東平野を震央とするかなり強い内陸型の地震。北勢地方でも木曾川河口の沖積平野を中心に大きな被害が出た。 旧版『四日市市史』に、「地中より泥水吹き出し、地より3～4尺（約1 <small>間</small> ）も上がり、常德寺・光源寺・蓮生寺の江戸門倒れ…」と記されている。
8	1854. 7. 9 (嘉永7. 6. 15) 伊賀上野地震	伊賀盆地西方を震央とするマグニチュード6.9 と言われる強い内陸型の地震。東は木曾川河口から西は大阪付近に至るまでの広い範囲にわたって震度6以上の激震が襲う。 旧版『四日市市史』に「北町の両側家屋ほとんど将棋倒しに倒壊し、加うるに一大火災を起こし、聞くも慄然たる焦熱地獄、阿鼻叫喚の巷と化したり…」と記されている。
9	1854. 12. 23～24 (嘉永7. 11. 4. 5) 安政東海地震	遠州灘を震央とするマグニチュード8.4 の大規模地震。この地震の強震域は関東地方から近畿地方にまで及び、ことに東海地方の海岸平野部は震度6の烈震に襲われた。さらに房総半島から土佐湾の間の沿岸に津波が押し寄せ、被

		害を一層大きくした。 伊勢湾沿岸の浪害は大きく、旧版『四日市市史』にも「全壊11軒、半壊 145軒」と記載されている
10	1891. 10. 28 (明治24) 濃尾地震	岐阜県本巣郡根尾谷付近を震央とするマグニチュード8.0 という内陸地震としては最大規模の地震。濃尾平野一帯が甚大な被害を受ける。四日市に於いても多くの被害。 伊勢新聞の記事に、「三重紡績の煙突が折れ墜落、四日市 尋常小学校で運動場地面亀裂し泥土を噴出、校内の掘貫井戸では従来に比し数倍の水を噴出…」とある。
11	1944. 12. 7 (昭和19) 東南海地震	熊野灘沖の海底を震央とするマグニチュード8.0 の大規模地震。地震による被害に加え、大きな津波が熊野灘から東海沿岸を襲い被害を一層広げた。 四日市でも石原産業が世界一と誇る185mの煙突が折れたり、網勘製網の工場が倒壊したりするなど、被害は甚大であった。全半壊の建物は 1,265戸，死者は23人。
12	1945. 1. 13 (昭和20) 三河地震	愛知県宝飯郡形原町・西浦町を中心とする烈震。死傷者3,339人，全半壊家屋15,343戸に達する。 三重県の震度は津5、亀山4、尾鷲3で、被害は軽微。
13	1946. 12. 21 (昭和21) 南海地震	紀伊半島南方の沖合約50 ^{km} を震央とするマグニチュード8.1 の大規模地震。津波が房総半島から九州にまで及び、地震による被害よりも津波による被害が大きかった。 四日市では東南海地震よりも被害は軽微であったが、それでも死者3人、傷者3人、倒壊家屋全半壊合わせて32軒となっている。
14	2007. 4. 15 (平成19) 三重県中部地震	三重県亀山市を震源に最大震度5強を観測。市内では震度4を観測。人的被害やライフラインの被害は無かったが、老朽化していた家屋が1棟一部損壊、市内の高等学校においてガラスの破損の被害が発生。

〔参考文献〕 亀山測候所編『三重県災害史』 昭和30年5月1日発行
 四日市市教育会編『四日市市史』 昭和5年12月1日発行
 四日市市編『四日市市史』 昭和36年3月31日発行
 四日市市編『四日市市史・第一巻史料編自然』 平成2年3月31日発行
 新編『楠町史』平成17年12月22日発行